

学習意欲の実態調査とその考察

足利市立第二中学校

1 はじめに

本校では学習指導部を中心に過去4年間、各教科ごとに1テーマをきめて研究を重ね、去る50年3月に集録第4集の作成を終わったのであるが、最近とみに生徒の学習意欲の低下が各教科で指摘されるようになって来たので、本年度はとくに“学習意欲の喚起”を学校課題として取上げ教科の指導だけでなく、学級指導など教科外の指導をも含めて研究に取組むこととなった。

しかし学習意欲そのものが、根源も深く、その発現する形も多岐にわたっていてつかみどころがないため、研究の糸口を探る手段として、まず実態調査を試みることにした。

第1回調査は、学習指導部において主に「教科に対する興味・意欲の起こったきっかけ」などを中心に行い、第2回調査として、教務部・校務部において、主に「意欲を起こす自主的な姿勢」の有無にシぼって実施した。

本稿は、その第2回調査の方法と結果の報告である。

2 調査の内容

(1) 「学習意欲」のとらえ方

① 自発性があること。例えば、英語を覚えて外人と話せるようになりたい、小学校のとき算数が得意だったから数学は楽しみだ、どうしても大学を出てお父さんの仕事を継ぎたい、お姉さんが高校生だから私も高校に入りたい、絵を描くのが楽しみだから美術のある日は朝から何となく楽しい、暴れなくては行かない位だから体育の時間は思わず夢中になる、……など、対象に取り組む以前の心的土壌とか、目標のようなものが必要であると思う。

また、どうせやらなければならない勉強なのだが、過去の経験から、「何とかなる。」という見通し・自信・自分なりの方法、などが心の支えになると思う。

加えて、「自分ではできないが、自分の班の人たちや学級の友達が心から励ましてくれているのがわかる」などのような支持的な雰囲気（愛情）も自発性の原因となろう。

② 自律的であること。幼い頃から培われて来た独立心や自己抑制力があること、極端な例では無理に勉強させられた場合でも、何とかがんばり通してしまいう意志、やっちはいけないことをやらない意志、のようなものを身につけていること。

③ 主体的であること。「テレビをやめて勉強なさい」と言われて渋々机に向うのではなく、「テレビをやめて勉強なさい」と言われて「やりたくないけれど、明日からテストだし、じゃあ始めるか」と思いなおして始める主体的な姿勢、従って「あいつに負けてたまるか」というような動機であっても、取り組む姿勢が主体的であれば該当すると思うが、どうであろうか。以上のような立場から作問を試みたが、「言うは易く行いは難し」で、意になかった設問はなかなかできないものと痛感した。

(2) 「学習意欲」の場の設定

潜在する「学習意欲」のプラス因子・マイナス因子をとらえるには、学校内だけに場を限定することなく、家族構成・家族の雰囲気・学習熱に通う姿勢に至るまで、ワラをもつかむ心境で場を拡げてみた。

(8) 選択肢の設け方

第1回調査の結果、「その他」のらんへの記述が多く、集計がたいへんだと聞いているので、できるだけ記号式回答で判断できるように、選択肢の数はあまり限定しなかった。

3 調査の方法

- (1) 対象は、各学年各学級男女それぞれ3分の2の無作為抽出とし、対象の生徒全員の分を集計した。
- (2) 期間は11月12日以後の1週間以内とし、学級ごとに随時実施してもらった。
- (3) 設問の可否および調査結果の考察については全職員参加の校内研修において検討を加え、修正を行った。

4 質問事項とそのまとめ

(1) 家庭環境について

- ① あなたは何番目の子ですか。(図-1) ② あなたの家では子供は何人ですか。(図-2)

				(第3子)			(3人兄弟以上)				
				(第1子)	(第2子)	以下)	(ひとりっ子)	(2人兄弟)			
1男	59%			30%		11%	1男	12%	63%		25%
1女	40%			42%		18%	1女	8%	46%		46%
2男	54%			35%		10%	2男	9%	58%		32%
2女	42%			41%		18%	2女	8%	61%		30%
3男	46%			39%		16%	3男	8%	61%		31%
3女	40%			40%		19%	3女	5%	53%		42%

図-1および図-2によれば、平均57%は2人兄弟の家族、47%は第1子であり、競争相手の兄弟には恵まれていないようである。

- ③ あなたは小学生のころ友達といっしょに、よく遊べた方だと思いますか。(図-3)

				(ときどき塾や(あまり遊べ おけいこ) なかった)		
				(よく遊べた)		
1男	88%			11%	1%	
1女	78%			21%	1%	
2男	86%			13%	0%	
2女	76%			20%	3%	
3男	87%			10%	1%	
3女	88%			9%	1%	

この項では、子供の面倒が行き届いて勉強や塾やお稽古のため、十分遊ぶこともできなかったのではないかと、について調べたかったのであるが、図-3は明かに否定的で、意外である。しかし実態が反映されているかどうか疑問でもある。英語塾は小学生コースからあるし、塾でなくても、PTAなどの話題から察する

ところでは、家庭でかなり勉強している様子を聞くからである。それにしても本人たちが「遊べた」と思っているのだから、欲求不満などによる歪みは、まずなさそうだと見ておきたい。

- ④ あなたの家の人は、あなたに「勉強しなさい」といつも言う方だと思いますか。(友達のようすと比べてみて、大体の感じで答えなさい)(図-4)

	(うるさい方)	(普通)	(言わない方)
1男	18%	71%	10%
1女	8%	73%	19%
2男	10%	69%	21%
2女	14%	58%	24%
3男	19%	54%	27%
3女	13%	60%	27%

(図-4)

この項は、現在の家庭内に気持ちの歪みの原因があるかどうかを見ようとしたものであるが、ここでも64%は普通の部類で、「言わない方」も含めると、86%は「うるさく言う」方でないことになる。だから家でうるさく言われるため学校ではボンヤリしたり遊んでしまったりする——というのは、なさそうである。

- ⑤ 現在お稽古や塾にどの位通っていますか。(お稽古と塾と同じ日の場合は2回として計算する。家庭教師も塾と同じように数える。)(図-5)

家庭でどの位ひまがあるか、自分の時間を持つ余裕があるか、を見るための設問である。1、2年と3年とでは状況が違うので、1、2年の方をみると、行っていない者は平均24%、この数字は驚きである。しかし来るべきものが来たという感じでもある。4回以上の19%に至っては、家庭での勉強のしかたなどの指導が入り込む余地は、なさそうに見える。また、小学生時代は、よく遊べたのに、中学1年で3分の2以上の生徒が、週2回以上の塾通いをしているのは、入学以前からの親の不安感が高かったということかも知れない。学校不信とも取れるだろう。

	(行っていない)	(1回)	(2~3回)	(4回以上)
1男	29%	2%	60%	10%
1女	27%	6%	42%	18%
2男	19%	5%	52%	21%
2女	19%	3%	48%	28%
3男	45%	2%	44%	10%
3女	27%	15%	40%	18%

(図-5)

(2) 自発的動機について

- ⑥ あなたは、学校や家庭で学習するのは何のためだと思いますか。自分の気持ちに最も近いものを1つ答えて下さい。(図-6)

生徒は学習に対して純粋な興味を持っているだろうか。図-6では①④⑥⑦⑧⑨が功利的な目的と考えられるが、合計すると1男から順に、76、61、80、60、63、58(%)となる。平均66%で2/3を占める。

純粋な興味の方は、甘く見て②③⑤あたりだと思いが、合計でそれぞれ20、33、1227、15、26(%)、平均は22%、つまり1/5は核として育てられそうだとはいえないだろうか。目的とか価値観は家庭の影響が大きく66%の壁は厚い。

(数字は%)



(図-6)

- ⑦ あなたが学校に来るとき、最も楽しいことは何ですか。2つ選びなさい。(1つでもよい)
(図-7)

前⑥項を形を変えて質問したものである。㊶㊷は学習に対する純粋な興味と見ることができよう。2つ選ばせたので100%でなく平均18.3%ずつになるから、㊶㊷の合計は平均28%ずつとなる。前⑥項よりは高率で、1/4を越えたのは嬉しい発見である。

また、㊸29%、㊹12% (いずれも平均し全体を100%としたもの)も見逃せない。生徒にとって学校とは何であるか、を問いなおすことが1つの手がかりにならないだろうか。

- ⑧ 学習塾(家庭教師も)に行く気持ちは?(図-8)

学校でわからなかった所がわかるようになる、学校よりレベルの高いことを教えてくれる、いやな顔をしないで教えてくれる……など、耳の痛い意見が「その他」の半数を占める。残りは、惰性、やめられないから、少しでも足しになるから……などが多い。

しかし、中には「塾で先に教わってしまうので、学校の授業はつまらない」が何人かある。意欲向上よりも減退に一役買っている塾もありそうである。

(数字は%)	㉑好きな科目		㉒学級の仕事		㉓友達と遊ぶ		㉔図書館		㉕生徒会活動		㉖勉強の充実感		㉗部活動		㉘学校行事や時間カッタ		㉙その他	
	1男	47	5			45	8	5				32	18	30				
1女	41	0			62	3	4				12	36	32					4
2男	38	2			47	7			3		9	29			43			7
2女	25	3			54	11			4		23	30	35					3
3男	28	4			43	3	7				15	5			49			14
3女	19	3			65	5	3				25	13	34					4

(図-7)

	(行っていない)		(父母安心)		(友達)		(成績)		(よくわかるようになり学校で授業が楽しい)			(その他)	
	1男	29%		8%	7%	5%			45%				
1女	27%	1%		17%	4%			46%					5%
2男	19%		5%	14%	5%			42%					15%
2女	19%		8%	20%	4%			34%					11%
3男			45%		3%	8%	6%	16%					23%
3女	27%		9%	12%		5%		23%					23%

(図-8)

⑨ 宿題以外の家庭学習を、どのようにやっていますか。(図-9)

自分で家庭学習を消化する力があるかないか、は技能的因子として重要であると思われる。図-9の㉑㉒㉓㉔㉕は一応こなして行ける者、㉖は救いを求めているか、または今までやろうとしなかった者、と見られよう。

この項は自発的動機として扱ってみたが、自律性の要因ともなり得るのではないかと思う。

①授業を真剣に ②やり方がわからない ③教科書・ノート中心に ④問題集中心 ⑤両方を使いわけて ⑥塾に頼る ⑦主に予習 ⑧その他

1男	3	23	30	7	23	5	3	7
1女	3	24	36	4	27	1	3	1
2男	4	17	38	4	18	8	3	8
2女	1	39	24	3	13	9	3	6
3男	3	20	10	24	25	3	4	11
3女		22	14	14	40	1	5	3

(図-9)

⑩ あなたは将来に夢を持っていますか。(自分の考え)(図-10)

近ごろは「先が見えている」子供が多いと聞くが、なる程学歴偏重の社会であれば夢を持つことは「バカげた」ことかも知れない。でも未来を信じるのが子供の特権であるとするれば、何人かは、まともな子供らしさを持っていてもいい筈だし、意欲の原動力として不可欠の因子であらうと思う。

図-10では①④合計を平均して49%は夢を持ち、⑤⑦合計の平均37%は2~3年先の目標しかない。心配した「先が見えている」組は平均10%と低い。

また⑧結婚相手の夢だけが支えだと言うものは平均2%と低率で、案外まともであることが判ると思う。

①ボヤークと ②具体策まで ③先が見えている ④合格のこだけ ⑤結婚相手 ⑥今の生活 ⑦その他

1男	25	20	12	19	3	19	1
1女	24	26	8	15	0	28	0
2男	31	19	6	25	1	15	3
2女	18	20	10	23	4	20	3
3男	27	32	13	19	2	4	4
3女	22	27	8	27	3	10	3

(図-10)

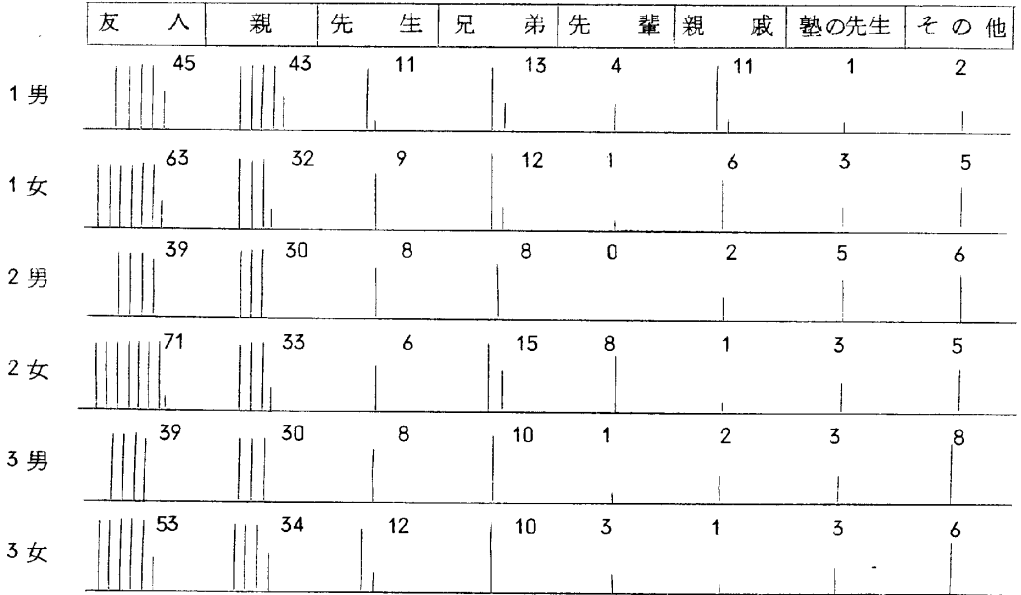
⑪ 自分は将来ああいう人になりたいと目標にしている人がいますか。(過去現在の実在の人物)。あったら名前を書いて下さい。なければ「なし」と書いて下さい。(以上質問)

本項はグラフ化してないが、「なし」の何と多いことか。(3男71%, 3女71%, 2男75%, 2女77%, 1男78%, 1女65%)。

また、挙げられた名前は、映画・テレビのタレントが最も多く、偉人伝中の人物名がこれに次いだ。

生徒を感動させる人物がいないのか、それとも本をあまり読まなくなったことも手伝っているのではなからうか。

⑫ 今の自分の気持ちをよく理解してくれる人が、次の中に居たらその番号をすべて書いて下さい。(図-12)



(図-12)

年ごろとは言え、生徒の心に占める先生の地位の低さに驚かされる。そしてとくに女子の場合、友人は親の2倍の理解度をもつ。教師たるもの心すべきことではある。

またこの事実、班活動の重要性をあらためて見直させる。

⑬ あなたが本校に入学してから、友達や先生から勉強のことで「がんばれよ」と心からはげまされて嬉しかったことがありますか。(図-13)

	(何回も)	(1~2回)	(あつたと思ひ)	(なかつたと思ひ)
1男	15	34	37	13
1女	14	28	44	14
2男	11	24	46	19
2女	10	27	38	23
3男	33	24	25	19
3女	23	32	26	18

(図-13)

「ある」と断定している者は平均46%で、あとの半数は、はっきり自覚していない。とくに、「なかつた」と思っている者が平均18%もいる。

もっともこれらは生徒の主観と記憶に頼っているから、事実そうではなかつたのかも知れない

い。毎日叱られてばかり居る生徒は、忘れていたかも知れない。それにしても18%もの生徒が「落ちこぼされて」いる様な感じと言えそうである。

(5) 自律性について

⑭ テスト前などの、あなたの家庭学習の態度はどうか。(図-14)

㊶ ついテレビをみて ㊷ テレビで ㊸ テレビはみるが ㊹ 見ないで ㊺ その他
 やらずにねる 時間が減る 大体やれる やる

1男	34	16	35	11	2
1女	22	30	31	17	3
2男	30	25	32	9	3
2女	33	29	18	13	5
3男	34	29	20	14	4
3女	19	29	35	10	5

(図-14)

㊶㊷は自律性欠如、㊸㊹は自律性保有とみることができよう。平均すると㊶㊷55%、㊸㊹41%となり、テレビ視聴方法の指導の必要が感じられる。男子は㊶㊷が高学年ほど多い。大人向け番組への移行、自由時間が少ないのに視聴時間が変わらない、なども考えられる。女子は3年になると幾分良い方に向かっているように見られる。

⑮ テスト前などの家庭学習のとき、今まで一番勉強したときは(10分ていどの休みを入れて)連続どの位続きましたか。(図-15)

(30分位) (1~1.5時間) (2~2.5時間) (3時間位・以上)

1男	9	27	34	30
1女	3	22	46	28
2男	3	24	43	30
2女	1	25	43	29
3男	7	14	26	52
3女	3	16	26	56

(図-15)

これは平均何時間続くかという問いではなく、自分の耐久力にどの位の自信を持っているかを調べるのが目的である。心身共に格段の発育をみせる3年生が、しかも受験勉強に油の乗ってきた11月に、このような力を持つのは当然であろう。

(6) 主体性について(授業中の発表態度を中心として)

⑯ 本校では手をあげて答える人が少ないようですが、答えられそうなのに手をあげない人は、なぜ手をあげないと思いますか。(図-16)

挙手発表を場として選んだのは、挙手が授業中最も普通な、サインであり、評価法であり、生徒の意欲を知るバロメーターであると思われるし、頻度も高く、他人の態度もよく観察できるので、生徒が答えやすいのではないかと考えた。

選択肢は多くしたつもりだったが、それでも⑦その他に記述も案外多かった。主なものは、
 ——「挙げるのがめんどろだ」「みんなが挙げるから」「クラスの雰囲気」「先生によ
 って違う」「恥ずかしい」「声を出すことに抵抗がある」等である。

⑦～⑩の中、⑦⑧(平均40%)は学級づくりの問題と関連し、⑨⑩(平均10%)は技
 術的工夫で解決できそうな問題、⑪⑫(平均42%)は授業中、答え方の具体的な指導や発問
 の工夫が不断に必要なことを示しているように思われる。つまり、52%のケースについては
 授業中の指導に鍵があると見られるし、40%の部分は、授業以外の場における指導が求めら
 れると考えてよいのではないだろうか。

⑦笑われる ⑧変な目で ⑨バカバカ ⑩できる人しか ⑪先生の期待 ⑫他の人の ⑬どう答え ⑭その他
 と思う 見られる しい ささない 通り答えら 答えと同 迷う その
 れない じだから 迷う 他

1男	37	5	5	2	16	3	25	4
1女	31	4	3	8	22	0	24	9
2男	22	17	6	3	19	3	21	8
2女	20	28	3	3	5	13	24	9
3男	26	11	12	2	15	2	22	10
3女	21	18	4	3	25	0	23	8

(図-16)

⑮ あなたは、自分が答えられない時に、他の友達が手をあげると、どんな気持ちですか。

(図-17)

⑮まぢがえて ⑯自分は助かる ⑰がんばって ⑱くやしい ⑲すまない ⑳何とも ㉑その他
 くれればよい くれ 思わない 他

1男	11	7	12	38	2	25	5
1女	9	12	6	54	3	15	1
2男	6	11	7	33	1	35	5
2女	4	14	6	49	1	22	3
3男	9	11	7	39	1	26	7
3女	5	17	0	43	0	27	6

(図-17)

挙手発表には、学級の支持的な雰囲気が必要なことは前16項にも出ているが、この質問は、
 本人が他人のために支持的雰囲気を作る気持ちを持っているかどうかをみたもので、応援型⑮
 ⑯は平均20%、抵抗型⑰⑱が50%、無関心型⑲25%となった。意欲の面からみると、
 抵抗型50%が最もエネルギーに富んでいるが、学級づくりのプラス入力には応援型20%から
 と考えられる。

⑳ あなたの学級では、手をあげて答えがまちがっていても、みんなが励ましの気持ちで見守っ

とされていると思いますか。(図-18)

(ある)

(支持的とそうでない人と、半半)

(冷笑的)

1男	9	53	38
1女	6	50	42
2男	4	52	44
2女	6	49	45
3男	9	27	64
3女	5	51	44

(図-18)

前⑩項を裏がえして、学級全体をどう見ているかを問うものである。この応答は、見方によっては自分の心の鏡に写したのだから、疑心暗鬼に似た現象で、実像でなく虚像であるかも知れない。従って、「ある」(7%)が現在、自分が支持的である生徒なのかも知れない。そう考えると、3男の「冷笑的」(64%)は、受験競争に駆り立てられた悲しい心の虚像と見ることができよう。1男38%と対比すると一そう明白であるように思う。

⑩ 本校では質問に行く人が極めて少ないようですが、なぜだと思いますか。(図-19)

①熱意がない ②わからぬ事が多い ③ばかりされそうだから ④職員室 ⑤忙しうだ ⑥友人から変な目で見られて ⑦友達に教えてもらおう ⑧教ででき ⑨その他

1男	37	7	15	3	1	4	14	4	12
1女	26	4	21	4	3	6	21	6	9
2男	35	7	15	3	2	6	15	7	9
2女	19	4	30	4	1	11	18	6	5
3男	33	11	11	6	3	7	19	3	9
3女	21	5	30	5	1	13	12	4	10

(図-19)

この応答でも「その他」が多い。1男から順に主なものを拾うと

「本で調べる」「家で何とかなるさ」「みんな行かないから」「質問するほどやってない」「教えてもらっても判らないと困る」「質問のしかたが判らない」「先生はぼくのことを本当に思ってくれてはいないから」「先生がいい顔しない」「授業のあとの方が質問しやすい」「親しみやすい先生が少ない」「質問点をはっきりさせるまで考えるのが面倒だから」「以前あいまにしか答えてくれなかった」等が主なものである。これらの記述から察するところ、生徒が先生に質問するという行動には、複雑なプロセスがあるらしい。従って応答⑦「質問に行く程の熱意がない」にしても多様の意味あいが感じられ、即断を許さないように思われる。

ただ、⑦⑧⑨⑩⑪⑫(56%)は質問したい気持ち、意欲を持っていると見做せるのではないだろうか。教師の一致した温かい構えがあれば、そして教室を出る前の時間的余裕を持つ工夫ができれば、潜在する意欲の掘り起こしの可能性もあると思われる。

⑫ あなたは学校の清掃の時間、先生が居ても居なくても、一生懸命やっていますか。(図-20)

	(たいいやる)	(やったりやらなかったり)	(あまりやらない)
1 男	14	57	29
1 女	15	50	35
2 男	16	59	25
2 女	19	58	20
3 男	37	50	13
3 女	38	45	16

(図-20)

学習意欲は、校内の生活一般におけるモラルと深く関連していると聞いている。この項は清掃時の態度から、個人の、あるいは学級のモラルを探ろうと意図したものである。

図-20によれば、3年生に格段の進歩が見られ学級編成替え後の2年間の学級づくりの成果が表われているようにも思われる。しかしこのモラルが、直ちに学習意欲の向上に結びつくとは考えられない。農作に例えれば耕地づくりに当たるであろう。

(7) 第1子と第2子以下との差異について

俗に「総領の甚六」と言うが、果たして「甚六」なのか、「学習意欲」にどのような差が見られるのか、無駄かと思いつつ、別々の集計も行なって比較してみた。結果は大体「有意差なし」と言えるが、若干差の出た応答もあるので、差の出た部分を摘出してみよう。

① 家庭学習をどのようにやっているか。(図-21)(A:第1子, B:第2子以下)

	やり方が わからない	教科書・ノート 問題集でやっている	その他
1 男	A	15%	68%
	B	35%	46%
2 男	A	8%	77%
	B	27%	50%
3 男	A	24%	59%
	B	16%	58%
1 女	A	19%	78%
	B	28%	66%
2 女	A	30%	45%
	B	46%	35%
3 女	A	16%	74%
	B	26%	66%

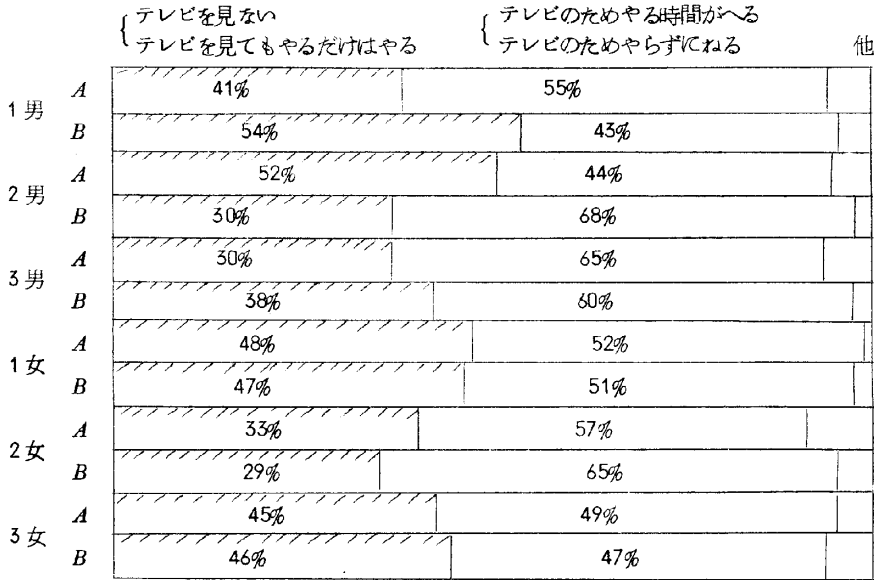
(図-21)

この種の差異は、性差があるようなので、男女別に並べてみた。

第2子以下では「やり方がわからない」が高率。第1子は幼時から行き届いた家庭学習指導が行われ習慣化しているのか、あるいは親の言うことをよく聞くのか。第1子が勉強家なのに

驚く。

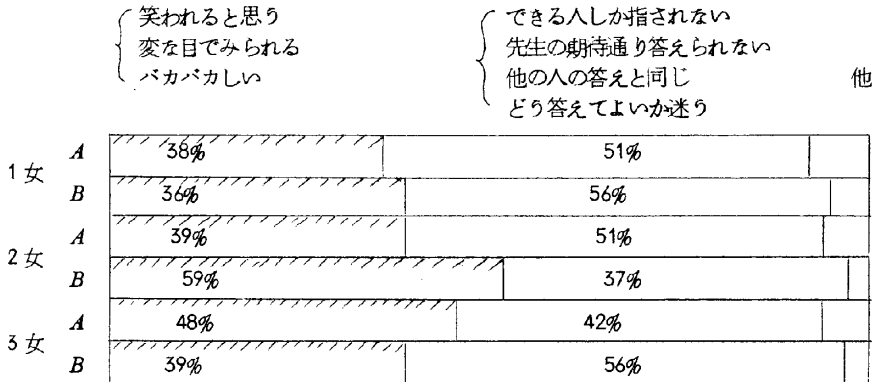
② テスト前の勉強ぶりで、意志力をみる。(図-22)



(図-22)

1男・3男では、第2子以下の方がやや意志力においてまさっているように見える。しかし2男では大きく逆転、2女でも逆なので、有意差であるかどうか疑問にも思える。

③ 答えられそうなのに手をあげないのは、なぜか。(図-23)

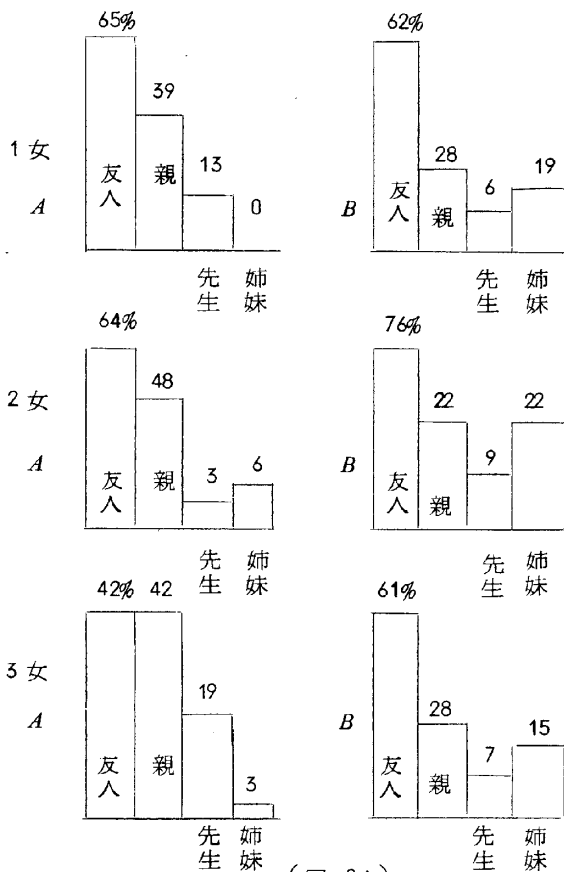


(図-23)

図-23の左の部分は、学級づくりに関係のありそうなこと、右は授業中の指導を必要とするようなこと、と分類したものであり、2女の第2子以下が大きく違っているので挙げたわけである。2女Bが、年ごろのせいかわ、強く他人を意識しているのが特徴的である。

④ 自分の気持ちをよく理解してくれる人。(図-24)

男子には大きな差異は見られないが、女子では図-24のように、Bの方は友人や姉妹に理



(図-24)

解者を認める度が強く、その代り親や先生が減っているようで、精神的離乳の早いことの表われとも見ることができよう。学級における積極性が期待できるのではないだろうか。

⑤ これらの差異をまとめてみると、第2子以下の者は第1子に比べて、親の手のかかり方も少なく、従って学習訓練の面ではやや劣るが、意志が強く、友人に対する依存度も高く、社会的適応性に富んでいる、と見てはいけないだろうか。創造性の面でも、よく勝れていることを期待したいものである。

(8) 全体的考察

- ① 家庭は核家族化の傾向から、物わかりよく、学校にはほのかな不信感をもっていて塾に依存し、電化が進んでいるため子供達に手伝わせることも見当たらず、ひたすら高校入試を目指して、子供達に大人達の功利的価値観を植えつけつつある。
- ② 子供達は、競争社会の厳しさの中で年ごとに孤立化を深め、過重な学習をこなして行く具体的指導不足のまま、ただおののき、救いを塾に求め、ストレスをテレビによって解消しながら夢もなく、その日暮らしを続けて、これまた入試合格をめざすことで「生」の充実感を味わっている。
- ③ そこでとりあえずの対策としては、入試用具としての学力でなく、内容のある学力の獲得の喜びを味わせるべく、学び方、発言のし方、地についた生活のし方、友達との話し合いのし方、力をあわせる意義、通い合う心の喜び、結果より過程の大切さ……等々、本来の自分人間らしい生活・学習をとり戻す指導が欲しいと思う。
- ④ そのためには、発問の工夫、考え方の指導、評価のあり方の再検討、学級の指導、開かれた教育相談の試行、認め合い磨き合い、ゆとりのある創造的な学級の雰囲気づくり……など、我々の前途に、問題山積であると思われる。

⑤ このアンケートにも、暗い材料が多くある反面、「学習意欲」の掘り起こしを可能にする手がかりは至る所に見られると思う。

例えば図-9の「やり方がわからない」者の指導で17~39%を救うことができるとか、図-16で「答え方」の指導をすることによって半数の者が手をあげる可能性があるとか、「心からはげまされたこと」の「ある」生徒は50%に満たない事実、「先生」は生徒を理解してくれていないと感じている現実——等々、枚挙にいとまがない程である。

(9) おわりに

本調査は、昭和50年度本校校内研修の一環として行われたものであり、「学習意欲」への取り組みの初年度の、問題発掘作業の1こまでである。すでに各教科各学年での実践的研究は進められているが、具体的な取り組みに当たって、問題をより焦点化するための一助ともなれば、という試行錯誤的な研究である。

しかしこの中で、従来「勸」でしかつかんでいなかった生徒の実態の一部を顕在化し、ある程度数量化することはできたように思う。また、「意欲」の根源に一步近づく効果もあったのではなからうか。来年度以降の実践に幾分でも役立てば幸である。

最後に、本調査を企画推進するにあたって、適時適切な御助言と激励をいただいた足利市教育研究所の先生方に敬意と感謝を申し上げる次第である。

参 考 文 献

季刊 主体的学習 第8集 村上芳夫 他 編 明治図書
講座 自主学習 I 末吉悌次・片岡徳雄共著 黎明書房

評

学習意欲の喚起をはかることを学校課題として取り上げて、熱心に研究に取り組まれ、今回第1報ともいふべき、学習意欲の実態調査と考察の報告をいただいたことを、心からお礼申し上げます。最近、児童・生徒の学習意欲を高めることについては、やる気を育てる指導とか、内発的動機づけというようないい方で、教育雑誌を中心として各方面で取り上げられ教育界における今日の課題の一つになっているように思われます。足利市教育委員会としても、教育の現代化を推進する一課題として、このテーマを柱に取り上げ、研究をお願いしているわけですが、学習意欲を高めるには、単に教科指導だけの問題でなく、学校、家庭、社会における生活とつながりをもつ内容であるため、研究の取り組み方にもむずかしさが多いように思われます。本調査研究から、今後の学習意欲を高める指導の研究を進めていく貴重な資料となる内容を設問のしかたや、調査結果などに求めることができるので、私たちのこれからの研究に生かしていきたいものであります。